発表用フォーマット

|  |  |
| --- | --- |
| 発表日(年/月/日) | 2015/ |
| 場所 | 尚文館405教室 |
| 出席者 | 松吉、鎌田、岡本、木村、橋本、金築、佐伯 |
| 第一発表者 | 岡本 | 第二発表者 | 松吉 |
| 司会 | 橋本 | 記録 | 佐伯 |
| ゼミ内での連絡 | 28日の講演会は現地集合 |

発表議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 第一発表者 | 岡本 |
| 研究テーマ | 小学校外国語学習の問題 |
| 発表概要(簡単に記入) | 【現状】* 高学年のみ実施。
* ALTが中心となって授業を進めている。打ち合わせはほとんどなく、当日に授業内容を知る。
* 担任の主な役割
1. 児童が理解できないときに、日本語に訳すこと
2. 活動がスムーズに進むように個別に指導すること
3. ALTとデモンストレーションをすること
4. 特別支援が必要な子どもの隣に付く、机間巡視すること

●”Hi, friends!”のデジタル教材を活用している●「教室英語（クラスルームイングリッシュ）の存在を知らない職員もいる。リストも持っていない。※英語ノート時代に流行したが、現在は廃れている●乙訓のほとんどの小学校が、ALT中心となって進めている●向日市のALTは企業からの派遣●外国語活動の研修はほとんどない |
| 【重点研究】* 京都府教育委員会指定　学力向上システム開発校(28~29年度)
* 研究主題　「自分の考えをもち、自分から人と関わろうとする児童の育成」
* 具体的な取り組み
1. ALT主導から担任主導の外国語活動
2. 児童が英語を楽しめる授業の工夫と教材開発
3. 低・中学年に対する英語活動の構想と実践
4. 英語環境の整備

例：外国の修学旅行生を呼ぶ/給食の配膳、体育、掃除などを英語で行う/英語の掲示物を貼る/クラス遊びを英語で行う |
| 【今、取り組むべきこと】1. 現行学習指導要領に沿って、年間35時間学級担任または外国語活動を担当する教師が外国語活動をきちんと行う
2. 子どもと英語を使ってやりとりする

・あいさつや簡単な指示、称賛などを外国語、英語を使って子どもとやりとりをすること・活動のやり方をデモンストレーションで示せばわかるような簡単な活動を多く行い、日本語を減らすこと1. コミュニケーション活動を工夫する
2. 一単元で授業をつくる
3. 中学校区内の小学校と連携を図る
4. 学校組織で取り組む
 |
| 【問題点】1. 担任が外国語活動を進める必要がある

・今のALTの派遣状況では、時数が足りない・全員が活躍できるような活動を考えやすいのではないか・日本の文化、教育とALTの文化の折り合いをつけた授業ができるのではないか1. 学校全体で取り組む

・職員全員がどの学年も担任できるといい（現状はかたよりがすごい）・校内研修が必要。時間を確保して、全体の意識が変えられるといい。 |
| Q&A | 出てきた質問・小学校担任だからこそどんな外国語活動ができるか（教科横断型、特別支援学級の児童への配慮など）　支援が必要な子も含む全員が活躍できる活動：学級を受け持つ先生だからこそできる。・誰にでもできる外国語活動（簡単だけど必然性のある活動を取り入れた単元・授業計画など）読み聞かせ先生同士で練習できる上に、生徒の知的レベルに合った指導を担任が考えられる長めの本を、時間を決めて少しずつ読み聞かせするのもおすすめおすすめの本：Giving Tree, Snowflake観光局が、外国人と交流できる制度を作っている（ファックスやメールでお問い合わせを）・外国語活動が必要とされる背景、小学校担任が指導する意義各生徒に合った評価ができる/can-doリストが作れる/1人1人の名前を覚えられる授業においても各生徒の特性をいかし、1人1人が活躍する授業設計ができる。 |
| 次回までの課題 |  |
| その他 |  |
|  |
| 第二発表者 | 松吉 |
| 研究テーマ |  |
| 発表概要 | 〔将来なにがしたいのか？〕英語教員（高校免許取得済み、中学校免許取得予定）【これまで何に興味を持っているのか】学士論文：・文法形態素の習得順序（特に規則・不規則変化動詞に注目）・中学～大学生における文法形態素の習熟度・習得過程の観察・形態素習得＆英語教育に関する質問紙・各段階における形態素習得の変化・差異・外国語教育への示唆 |
| 【現在、興味関心があるもの】言語学（形態論）、語彙学習、外国語教育学、言語テスティング特に言語学に強い関心がある。 |
| 【興味がある分野の統合】* 学校教育における外国語教育で、学習者へのより効果的な語彙学習方略を、①学習者に語彙レベルと②語彙学習方略調査票を用いて量的・質的分析を行い提示する。
* 問題

田頭（2005）や前田（2003）ですでに実験が行われている学習対象者をどうするか |
| 【成果物の進捗状況】前田・田頭・三浦（2003）を元に研究を行う予定 |
| Q&A | 1. どういった分野に興味があるのか

言語学1. どういった研究方法があるか

英語のレベルが高い人を徹底的に調べる/逆に英語が苦手な人をひたすら分析する。（いずれの場合も手に届きやすい対象を研究する）コンテクストから学習者がどう学ぶか同じ単語、違うコンテクストの文を複数作り、それを使用して学習者が外国語を習得できるか1. 分野がメジャーすぎないか

・修士論文では、奇抜な研究より地についた研究の方がよい。先行研究から、使えそうなものを探し出す。 |
| 次回までの課題 | 　語彙習得の定義を決める。 |
| その他 |  |

☆ファイルのアップロード方法

竹内ゼミHP：　<http://ree-takeuchi.com/>

Googleなどで「関西大学　竹内ゼミ」で検索すると一番上に出てくるホームページがゼミのHPです。右上の「ログイン」から自分のIDとパスワード（入学時に住先生から送られてきているはずです。※通常は使用しているEメールアドレスの＠以前が両方ともに設定されています）を入力してください

ログイン後、左にあるGroup→Files→00A2ゼミ発表報告に移動してください。

そのページにファイル追加をクリックしてアップロードするファイルを選択してください。

ファイル名は下記の表記に従ってください

例：2010年5月20日に佐藤さんが発表
100520【ゼミ発表報告\_佐藤】.doc

* 第１発表者と第２発表者は「・」で連結すること
例：2015年6月7日に、伊藤さんと加藤さんが発表
150607【ゼミ発表報告\_伊藤・加藤】.doc